

# 大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム 長期プロジェクトコース プロジェクト報告書

株式会社インサイトハウス  
中村輝 新造利佳子 竹内成美  
2022 年 11 月 10 日  
プロジェクトの活動記録とその成果について

## 1.はじめに

この度のプロジェクトでは株式会社インサイトハウスで山科の魅力を伝えるために竹内、中村、新造の3人がインターンシップ生として参加した。

本報告書では2022年6月から2022年11月までのおよそ5か月間の活動についてまとめ、報告することを目的とする。

## 2.概要

### 2-1.株式会社インサイトハウスについて

京都府京都市山科区に位置し、山科駅と柳辻駅に店舗を持つ不動産会社である。TOMOSU GROUP(トモスグループ)に含まれ、「人の前に明かりを灯す」というグループ理念のもと「山科を"住みたい街"ナンバーワンに」する未来を目指し、地域との繋がりを重視したサービスを提供している。TOMOSU GROUPはこの他、お弁当事業、宿泊事業、ネイルサロンなど暮らしに関わる「い」場所をつくり続け、皆が主役になれる社会の実現が究極の目標だ。

### 2-2.プロジェクトについて

2012年を第1期とし、今年で10年目となる。インタビュー活動を主として山科区の魅力と生活する人々の魅力を発信し続けている。なお、当初の目的は山科の悪いイメージを払拭するというものであったが現在では人の魅力を伝える面が大きい。毎年副テーマが存在し、

今年度は「やましなはかせ<sup>1</sup>とみらいのやましなさん<sup>2</sup>」と設定した。新型コロナウイルス感染症が流行したことにより様々な行事やイベントが自粛されていたことから、地域間交流が減っていると判断した。幅広い世代の繋がりを、後述する成果物制作やインタビュー活動を行うことによって強固にし、企業の究極の目標を達成する一助になるためにこの副テーマを設定した。

また、今年度のプロジェクトは過年度のプロジェクト目的に追加項目がある。株式会社インサイトハウスは現在組織再編中であり、グループ間で価値観を統合しているためだ。全ての事業が横並びで対等に結びつき、グループ理念に共感した人々の集まりを目指しており、本プロジェクトは各グループ全てに影響を及ぼすものとして存在しようとしている。

今年度の活動はインタビューと SNS 運用、成果物作成だ。成果物は過年度を踏襲してフリーペーパーを、今年度独自のものとしてカレンダーを制作した。

### 3.活動内容

主な実習内容としては、インタビュー活動や突撃取材、フリーペーパーなどの成果物の作成である。活動記録については以下のとおりである。

---

<sup>1</sup> 山科区の魅力を知っている人物を指す。山科区に1年以上居住あるいは通勤、通学している者を対象とした。

<sup>2</sup> やましなはかせと比較した際に、山科区の魅力をまだ知り尽くしていないと判断した人物を指す。判断基準は居住や通勤通学歴が1年未満であることあるいは訪れたことがないことだ。

|          |                                      |
|----------|--------------------------------------|
| 6月20日    | 事前訪問                                 |
| 7月16日    | 太田様のコミュニケーション講座受講                    |
| 7月21日    | 取材先決め、アンケート用紙作成                      |
| 8月上旬     | 企画書作成、取材予定先にアポ取りに伺う、突撃インタビュー         |
| 8月中旬から下旬 | インタビュー、突撃インタビュー、お礼状作成、Instagram 投稿   |
| 9月上旬     | インタビュー、子ども食堂のお手伝い、Instagram 投稿       |
| 9月中旬     | インタビュー、フリーペーパー作成、アンケート回収・集計          |
| 9月下旬     | フリーペーパー作成                            |
| 10月      | 山科川清掃、カレンダー作成、フリーペーパー作成、Instagram 投稿 |

### 3-1.コミュニケーション講座

株式会社インサイトハウスの担当者様のコミュニケーション講座を受講させていただいた。その講義では、話し方や聞き方のテクニックを教わった。インタビューをする際には受け手が重要であること。説明ではなく、話し手の思い・信念を真っ白な気持ちで聞くこと。同じ想いを想像し、体験すること。オーバーなくらい反応すること。山科の魅力を伝えるために話し手の想いを引き出すこと。など多くのことを学んだ。しかし、一番重要なことは、元気の良さを出すことであると教わった。これが無意識で出すことができるようになることが大切であるとおっしゃっていた。

### 3-2.取材予定先へのアポ取り

インタビューをさせていただくために事前にアポイントを取って行った。まず、どのお店にインタビューのお願いをするかの候補を挙げ、そこから自分たちで話し合い、アポイントを取るところを絞った。最終的に、アポイントを取ってインタビューさせていただいたところは以下の通りである。マリ亞ンヌさん、りとるすと〜ん栴辻店さん、山科区役所さん、松井一雄さん、京菓子司芳治軒さん、山科青少年活動センターさん、小金塚自治連合会会長玉木誠一さん、小島信太朗さんの8つである。

### 3-3.インタビュー

私たちが主に行った活動内容はインタビューである。インタビューをする前に株式会社インサイトハウスの担当者様からの講座を受け、インタビューのやり方やコツを教わった。相手と話す際に意識することや伝え方、聞き方などを学んだ。講義を受け、学んだことを意識しながら、初めてのインタビューに行った。初めてのインタビューはマリ亞ンヌさんであった。質問内容を事前に考えていたが、インタビューが始まると緊張してしまい思うように進まなかった。その場合にどうしていいか戸惑うこともあった。沈黙が起きたときにどう話を展開していいのかわからず、インタビューをどのように終えたらいいのか、終わるタイミングを逃すこともあり、多くの課題が残るインタビューとなった。インタビューごとに毎回役割を変えていたが、反省点を改善しながらインタビューを行ったところ、インタビューの回数を重ねるごとに良くなっていった。

アポイントを取ったところに対してすべてのところに聞いた質問内容がある。「山科の魅力」「お店の魅力」「おすすめ商品」である。インタビューさせていただいた多くの方が山科

はアクセスも良く、人の温かさが魅力的であると答えてくださっていた。

#### 3-4.突撃インタビュー

山科の地域の人々へインタビューを行った。場所は公園や駅周辺で行い、5件の突撃インタビューをした。突撃インタビューをさせていただいた全ての方々に対しての質問内容もある。「年齢」「山科の魅力」「山科に住んでいる人の人柄」である。山科の人々もやはり山科の人は温かいとおっしゃっていた。しかし、山科の魅力について聞いたところ、質問の内容が漠然すぎて、インタビューを受けてくださった方を困らせることもあった。質問内容を具体的にすることが重要であると理解できた。

#### 3-5.子ども食堂のお手伝い

9月3日(土)に、子どもお弁当食堂「サンフラワー」様にお伺いした。子どもお弁当食堂サンフラワー様は第一土曜日の11時30分から13時まで開催されており、子ども100円、大人300円でお弁当を提供している。途中からの参加になったが、お客様に渡すジュースやレトルト食品の袋詰め、お弁当の配列、お客様へお弁当の提供などのお手伝いをした。

また、子ども食堂のお手伝いだけではなく、子ども食堂の場所を提供している松井一雄さんにインタビューをした。松井一雄さんは、「今後教育に関わることをしたい」、「人と人のつながり、絆が大事である」とおっしゃっていた。

#### 3-6.山科川清掃

10月9日(日)に山科川清掃に参加した。約1時間の清掃活動で、傘や椅子、空き缶、たばこの吸い殻など多くのごみを回収した。山科川清掃は、約1年前から月に1回実施されており、勧修寺公園周辺から始まった。新型コロナウイルスで2年間地域の清掃活動がなくなったため、山科川が汚くなってしまったことが山科川清掃を始めたきっかけであるそう。この活動は、地域の清掃活動というよりも会社やお店の地域貢献として行われている。

### 3-7.アンケート

7月末にアンケートを作成し、8月中旬ごろから株式会社インサイトハウス、山科区役所に設置した。株式会社インサイトハウスと山科区役所で働いている方、株式会社インサイトハウスでインターンシップをしている京都橘大学の学生の方にアンケートの協力をお願いし、合計27名の方に回答していただいた。アンケートは、山科区の魅力度を山科区に住む方、山科区で働いている方を調査する目的で行われた。

アンケートの集計結果としては、魅力度は10段階中平均6.62、住み心地についての満足度は10段階中平均7.53、山科に住み続けたい人は56%、山科で魅力に思う場所・安心できる場所があると答えた人は68.2%いることがわかった。

山科区の魅力に関するやましなさんの意見として、「交通の便が良い」「落ち着いた雰囲気」で住みやすいなどという肯定的な意見もある一方で、「マナーを守らない人がいる」「子育てがしづらい」など否定的な意見も見られた。

住み心地については、「スーパーが多い」、「適度に自然もある」という肯定的な意見も見られたが、夜の騒音や道が狭いなど改善を促す声も見られた。

### 3-8.フリーペーパー作成

フリーペーパーは表紙裏表紙を含めて、全 24 ページで構成されている。テーマは、「やましなはかせとみらいのやましなさん」で、内容としては目次見開き 1 ページ分、インタビュー見開き 7 ページ、突撃インタビュー見開き 1 ページ、コラム見開き 1 ページ、アンケート集計結果 1 ページ、編集後記 1 ページである。また、記事だけではなくコーナーとして「きょうのやましなさんフォトチャレンジ」を設けた。実際に掲載されている場所に訪れるきっかけを作り、紙面上ではなく対面での交流を作りたいという目的から作成した。

### 3-9.カレンダー作成

カレンダーは、日めくりカレンダーの形式となっており、山科のおすすめスポットの写真为背景に使用している。この写真は、取材先や今年度株式会社インサイトハウスでインターンシップをしていた京都橘大学の学生が撮影したものを使用している。

カレンダーを作成した目的として、カレンダーは毎日見るものであるため日々山科の魅力に触れ、楽しんでほしいと考えたためである。日めくりカレンダーの形式にしたことで、年月関係なく長年使っていただけたと考えた。

### 3-10.SNS 運用

きょうのやましなさんとして、Instagram と Facebook を運用していた。投稿は主にきょうのやましなさんの活動を載せている。投稿内容では、フリーペーパーで文字数の関係で使



うができなかった内容や突撃インタビュー、アンケートの呼びかけなどを記載している。11月10日(木)時点で、11投稿を行い、フォロワーは488人である。

#### 4.成果

フリーペーパーとカレンダーの配布を直接行うことができていないため、受け取ってくださった方の反応を具体的に見ることはできていない。今後取材先の方にフリーペーパーとカレンダーの配布を計画しているため、その時に成果を確認したいと考えている。

またインタビューなどの活動に加えて、SNSの投稿を行った。フォロワーは3か月前と比較して2.3%上昇、リーチしたアカウント数は59.5%上昇、アクションを実行したアカウントは50.9%上昇した。定期的に更新をすることができていなかったが、SNSを通じて山科の魅力を知ってくださる方が増えた結果であると考えている。

#### 5.反省点

1点目として、時間管理である。最終発表までにすべての活動を終えることができなかった。フリーペーパーやカレンダーの作成に時間がかかりすぎてしまったこと、計画の甘さが原因であると考えている。本来の計画と比較すると、フリーペーパー入稿は3週間、カレンダー入稿は1か月強後ろ倒しになった。取材先との日程調整も関係しているが、要因は十分な作業時間を確保できていなかったことと意見の擦り合わせが上手くいっていなかったことが挙げられる。今後予定している活動はカレンダーの入稿、フリーペーパーの誤字の修正、フリーペーパーとカレンダーの配布である。

2点目として、コミュニケーション不足である。これはインターンシップ生間でも、企業間でも問題となった。個人で考察するのみで他の実習生に詳細なことを伝えず、誤解を招いてしまうことや、グループでの話し合いの結果を実習先の方に報告できておらずご指摘をいただいたこともある。

この2点を反省すべきこととして、今後の活動などに活かしていきたい。

## 6.今後の展望

本プロジェクトは現時点で年度ごとで完結し、成果物がフリーペーパーであることと一定の取材先以外引き継いでいない。取材のノウハウといった技術や、地域の人々との交流や関係性を何年も続けていけるように再構築する必要があるだろう。

活動をしていく中で、プロジェクトを知っている方も多いという印象を受けた。プロジェクト名を聞いたことがある方、内容も把握している方など様々であったが、このことからきょうのやましなさんプロジェクトの効果は着実に上がっているといえる。

## 7.終わりに

約半年間、インタビュー、山科川清掃、子ども食堂のお手伝い、フリーペーパー作成など様々な経験をさせていただいた。インターンシップという大変貴重な時間をいただいた株式会社インサイトハウス様に、感謝する。